

市長と語る タウンミーティング  
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成 24 年 10 月 9 日（火） 午後 7 時～ 8 時 50 分  
会 場 北野集会所（北野町内会）  
天 気 晴れ

参加者 78 人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆北野 2 丁目に住んでいるが、ふじみ野市の防災無線の内容がまったく聞こえない。川越市の無線内容だけが聞こえる状態。何とかならないか。
- ☆音は比較的、低地から高地へ流れていくので、北野地域については川越市の無線がよく聞こえてしまうのは理解できる。今年度から 3 か年かけて無線の整備を行っていく内容として、現在 55 箇所あるパンザマストの位置を変えていくという計画にはなっていない。しかし、どうしても聞こえにくい場所については、変更もあり得ると思う。音達調査の結果を踏まえて、パンザマストの位置やスピーカーの向き等を変更していく必要もあると思う。その他、メール配信サービスの中で、防災無線の内容を無料で配信しているので、これをご利用いただく方法もある。ご案内を持ってきたので、後で見て欲しい。
- ◆北野地域は海拔が高く水に対する不安は無いが、どれぐらいのマグニチュードまで耐えられるのか、地質調査などは行っているのか。いつ地震が起こるか分からない中で、火災の心配が非常にある。住宅密集地で道路も狭いので、火災が起きたとき、避難所まで辿り着けるか分からない。避難誘導等のマニュアルはあるのか。家屋などの倒壊は避けられても、火災対策は十分にしておかないと非常に心配である。
- ☆地盤調査については特にしていないが、皆さん地震のニュースが流れる度にお気づきかと思うが、本市の揺れの状況は近隣市に比べて常に 0,4～1 程度低い状況になっている。震度については、各自治体の敷地内に埋められている震度計の数値が、瞬時に県へ送られその情報がテレビなどで流されている。ふじみ野市については、本庁舎と公民館との間あたりにその震度計が埋められており、私の感覚としても当初は壊れているのかと思うぐらいの数値であり、疑いもしたがその心配はまったく無く、恐らく地盤的には近隣市に比べ、しっかりしているということが言えると思う。しかし、おっしゃる通り火災については、本当に怖いものがある。地震は発生する時間帯や季節によって被害想定がまったく異なると思うが、特に冬場の夕方に地震が発生した場合には、強い北風や暖房器具、調理器具などの影響によりあちこちで火の手が上がるのが想定される。その時に、真っ先に避難所を目指そうとしても、そちらの方面が火の海である状況下において、こちらの地域であれば上野台小学校を目指すことはない。

まずは、自分の身近な場所で身の安全を確保できる場所を探して避難して欲しい。それが、近所の畑でも駐車場でもいいから、普段から身近で安全な場所としてどこか探しておいて欲しい。延焼がおこった場合、消火栓さえも機能しない恐れがあるだろう。また、道路事情により消防車が辿り着けないこともあるだろう。現在も住宅密集地対策として、消火栓から直に水を出すことができないかなど策を講じているところであるが、何しろ一番大切なのは皆さんの命である。何が何でも避難所を目指すということではなく、身近で安全な場所に身を移すことをまず心がけていただきたい。避難所は皆が一斉に逃げ込む場所ではない。かえって危険である。揺れがおさまり、余震もおさまったが自宅には倒壊などでどうしても住むことができない場合などに、当分の間、雨風を凌ぐ場所として考えておいて欲しい。北野公園なども緊急避難場所として使えると思う。

◆駐車場では車の発火からガソリンなどの影響もあり、かえって危険なのではないか。

☆自動車が発火するような状況では、当然のことながら人間が近づける状況ではない。普段からこの地域においてはどこが安全なのかについて、皆さんで様々なシミュレーションなどしながら、話し合う機会を持って欲しい。先日、災害に対応するための首長研修があり参加したが、津波の影響に対する被害想定は今年の冬あたりになるらしい。100メートルの津波想定も作ろうと思えば作れるが、そんな状況への対応策など無いのが現実である。そんな中で、内陸地域の首長としては私の出席が珍しかったのか「内陸のまちは良いですね」と言われた。私は、このタウンミーティングの主旨として、決して皆さんの不安をあおりに来ている訳ではない。日頃からの備えや心構えが非常に大切で、このことが皆さんの大切な命を守ることになることを訴えるために地域の皆さんの元へ伺っている。そして、日に日に3.11の記憶が薄れ、あの時の恐怖心が風化しようとしているこの段階に、改めて皆さんに防災に対する重要性をお伝えしたい。水道管も随時、耐震性のあるものに取り替えており、現在55%の耐震性確保まで来ているが、100%になる前に明日、大地震が起こらないとも限らない。その時のために、皆さんで課題解決に向けた話し合いを積極的にしてもらい、地域の防災力を高めてもらいたい。

◆自然災害については想定外の状況が多々ある事は想像できるし、今日の市長の説明を聴いて、どんなに初動態勢が大事であるかということも理解できた。3日間72hの態勢をどうとるかという自覚もできた。市長の言う安全・安心のまちづくりが具体的にどんなものなのか理解もできたが、飲料水の話や食糧の話がある中、重点的に力を入れているものは何なのか。何を目玉としているのか。消防車などが入って来られないという話もあり、その時には、自助・共助・公助が大切だと。地域の力と市役所との協力で乗り切っていこうと、そういうことか。

☆今日の最初の説明は、今年度に既に着手しているものもあり、今後のことも含

めた形で同時並行的な面から説明させてもらった。この説明内容が重点内容だと言える。初動の72hについては、まずは皆さんが自助という中で自らの命を守る。その後の3日間の食糧について、基本的に一日2食を考えた時に、一日はふじみ野市で、もう一日は県からの支援、もう一日については、皆さんのご家庭の普段からストックされている食糧を持ち寄って何とか三日間を凌ぐという内容である。お米を購入するのにも、全部消費してから買うというのではなく、早め早めに備えていくという心がけをお願いしたい。食糧は食べて循環。粉ミルクも市内保育所などで使い循環させている。何とか三日間を皆さんの力を合わせて乗り切っていくという計画である。地域の皆さんでの支え合いである。行政としても平時から最大限の努力をさせていただくが、火災も起こさないようにするための自助努力が必要だと思う。初期消火の為の対処方法を万全にするなど、自分たちで自らの家を守りきる方策をとってもらいたい。そして、循環させる米については、水の心配が要らない無洗米が望ましい。断水人口46,000人が想定される中で、トイレで使用する水についても不足が想定できるので、対処方法としては風呂の水を抜かない習慣も大切である。風呂を洗う直前まで水を抜かない習慣である。そして、火災防止の自助努力としては、避難（外出）する際には、必ずブレーカーを落とすということである。大原自治会へ伺った時に情報を得たが、地震の際の揺れを感じると自然にブレーカーが下がるという防災グッズがあるということ。通電火災を防ぐためには大変有効である。

◆断水地域ははっきりしているのか。

☆先ほど水道管の布設替えについて55%という話をさせてもらったが、どこの水道管という特定したかたちで進めている訳ではないので、場所の特定は難しい。

◆井戸水は使えるのか。

☆確実性の話はできないが、使える想定はしている。遠隔地とも協定を結んでおりそこからの支援も当然期待できるものである。実際、協定を締結している長野県の飯田市へは、もう既に給水車とともに職員も帯同し援助に行っている。その他、遠隔地とは既に3市との協定締結もしており、大型スーパーなどとも協定締結が済んでいる。また、大原公園には100トンの耐震性貯水槽が埋まっており、1人一日3リットルが必要であることを想定しても、1万人の人に対して3日間供給できる想定をしている。是非、非常用ポンプなどの確認を含め、一度立ち会い検査をお願いしたい。

◆防災訓練の内容がよく分からない。防災倉庫の内容も知らない。毛布などが中に入っているであろうことは想像できるが、宝の持ち腐れにならないような活用方法を考えて欲しい。以前聞いたことで、福岡中央公園のベンチは竈になると聞いた。

☆おっしゃる通り、公園のベンチは竈にもなるし、マンホールトイレも設置されている。防災備蓄品について、これまで市は使うことを積極的にアナウンスしてこなかったが、これからは違う。食糧品以外はどんどん使って試していただ

きたい。先日もさぎの森小で炊きだし訓練を行ったが、未使用のものはアクが出るためそのまま使える状態ではない。あらかじめ、何度か訓練で使っておいてもらわないと、いざと言う時、使い物にならないものがたくさんあると思うので、防災資機材については、今後、積極的に使っていただきたい。公園なども防災訓練などとして目的がしっかりしていれば使用可能である。また、町内会で備えているものの他に、各ご家庭でお持ちのキャンプ道具なども出し合っ有有効活用してもらおうことを望んでいる。

◆北野公園付近にとっても狭い行き止まり道路があり、大型トラックなどは行き止まり付近からかなり早いスピードでバックしてくる状況があり危険なため、一方通行出口のところに行き止まり表示をしてもらえないか。歴代の市長にもかなり前から要望してきたが聞いてもらえなかった。

☆すぐに対応させていただきたい。

◆防災無線について整備するとのことだが、現在設置されている箇所からの増設は考えてないのか。

☆難聴地域については、その解消を図るために増設する可能性もある。

◆先日の台風 17 号の際にも、川越からの無線がよく聞こえた。窓を閉め切っていても鮮明に聞こえた。台風の際に窓を開け放している家は無いと思うので、窓を開けないと聞こえないという状況も問題ではないか。

☆あの時ふじみ野市については、職員も詰めており状況把握をきちんと行っていたが、停電などの実態も無かったため、あえて不安をあおるような無線は流さないことに決めた。

◆ライフラインが壊滅した際のことを考えると、せめて避難所等には自家発電機が必要と考えるが、準備はしていくのか。

☆既存の公共施設については、今後においても設置していく方針はない。しかし、現在、建設を進めている大井総合支所にはその設備を備えていく。最低三日間、72h はもつという想定であるし、燃料さえ供給できればそれ以上も活用できる予定である。

◆市内にある古いビルなどについて、市から耐震指導なり補強なりのアプローチはするのか。

☆市が直接指導していくということではないが、公共施設については県から指針が出されており、昭和 56 年以前の建物については耐震性を充たしていないという見解であり、震度 6 弱の地震に耐えるには難しい状況であることが示されている。これを受け、ふじみ野市の施策としては、住宅に対する耐震診断や耐震補強のための支援を行っており、このタウンミーティングの効果なのか以前に比べ耐震補強の補助申請数は倍増してきている。来年度もこの状況を考慮し予算措置していきたい。

◆北野地域は川越との市境で川越市にとってもあまり目や手の行き届かない地域であるため、道路事情に課題が多数ある。急な勾配など、川越市とも調整して対処願いたい。狭隘道路に立っている電柱についても対策を講じて欲しい。

☆実態をしっかり捉えて川越市とも話し合いをしていきたい。電柱対策は東京電力側へお願いするかたちになる。今後、民地の開発行為などがある時は、率先して確保に心がけ、道路の狭隘対策を進めていきたい。